

2023年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年5月9日

上場会社名 情報企画 上場取引所 東
 コード番号 3712 URL <https://www.jyohokikaku.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松岡 勇佑
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 (氏名) 中谷 利仁 TEL 03-3511-8371
 四半期報告書提出予定日 2023年5月12日 配当支払開始予定日 2023年6月5日
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年9月期第2四半期の連結業績（2022年10月1日～2023年3月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年9月期第2四半期	1,786	—	749	—	755	—	515	—
2022年9月期第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 2023年9月期第2四半期 515百万円 (—%) 2022年9月期第2四半期 一百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年9月期第2四半期	153.77	—
2022年9月期第2四半期	—	—

(注) 2022年9月期連結会計年度末より連結財務諸表を作成しているため、2022年9月期第2四半期の数値及び対前年同四半期増減率は記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年9月期第2四半期	6,921	6,029	87.1
2022年9月期	7,137	5,656	79.3

(参考) 自己資本 2023年9月期第2四半期 6,029百万円 2022年9月期 5,656百万円

(注) 当第2四半期連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2022年9月期の各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映しております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年9月期	—	45.00	—	45.00	90.00
2023年9月期	—	45.00	—	—	—
2023年9月期（予想）	—	—	—	45.00	90.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年9月期の連結業績予想（2022年10月1日～2023年9月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,500	8.3	1,250	0.6	1,250	0.6	870	0.9	259.73

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有
新規 1社 （社名）株式会社アイピーサポート

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年9月期2Q	4,090,000株	2022年9月期	4,090,000株
② 期末自己株式数	2023年9月期2Q	740,409株	2022年9月期	740,409株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年9月期2Q	3,349,591株	2022年9月期2Q	3,349,643株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 2「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	8
(企業結合等関係)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(2022年10月1日から2023年3月31日の6ヶ月間)におけるわが国経済については、原材料の高騰や人手不足、為替や金利等資本市場の変動などから下振れリスクが懸念されますが、総じて景気は緩やかに安定して推移していると見られます。また当社グループの主要な販売先である金融機関の業況は改善しており、当社グループの受注活動は順調に進んでおります。

業況につきましては、「システム事業」は、「財務分析・企業評価支援システム」が地方銀行や信用金庫を中心に数多くの受注を獲得し売上が増加したほか、「担保不動産評価管理システム」も大手金融機関や地方銀行中心に受注を伸ばし売上に貢献しています。システム開発に係る「システムインテグレーション部門」とシステムのメンテナンスを行う「システムサポート部門」の当第2四半期連結累計期間の売上高は前年同期比増収となり、営業利益も前年同期比増益となっています。

「不動産賃貸事業」につきましては、賃貸収入の売上高は前年同期比増収となっていますが、営業利益は会社分割に伴う不動産登記費用が嵩み前年同期比減益となっています。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は1,786,429千円、営業利益は749,425千円、経常利益は755,194千円、親会社株主に帰属する四半期純利益は515,073千円となりました。なお、今期は損益に関して連結初年度であるため前年同期比較を表示しておりません。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

①システム事業

「システムインテグレーション部門」

主要なシステムである「担保不動産評価管理システム」は大手金融機関や地方銀行宛てに増収となったほか、「財務分析・企業評価支援システム」も地方銀行中心に更改案件が増え増収となりました。「契約書作成支援システム」は地方銀行や信用金庫中心に電子契約案件の受注が増加し増収となっています。「融資稟議支援システム」は、ペーパーレス等業務効率化の推進が浸透し信用金庫宛て売上高に貢献しています。

この結果、システムインテグレーション部門の売上高は、983,775千円、セグメント内の売上高構成比は58.2%となりました。

「システムサポート部門」

メンテナンスの売上高は、例年の路線価データの納品やシステム導入が進み前年同期比増収となり、システムサポート部門の売上高は707,976千円、セグメント内の売上高構成比41.8%となりました。

以上の結果、システム事業の売上高は1,691,751千円、セグメント利益は746,715千円となりました。

②不動産賃貸事業

不動産賃貸事業は、2023年1月から会社分割により子会社である株式会社アイピーサポートで行っており、賃貸マンション3棟、立体駐車場1棟、賃貸オフィス1棟及び賃貸店舗2件の計7物件を所有し展開しております。当第2四半期連結累計期間の売上高は、賃貸収入94,677千円、セグメント利益は2,710千円となっております。セグメント利益が大幅に減少しておりますのは、会社分割に伴い不動産を移転したため不動産登記費用が嵩んだためです。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における資産合計は、6,921,525千円となり、前連結会計年度末に比べ215,717千円減少しました。これは主に売掛金及び契約資産が減少したことによるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は、892,022千円となり、前連結会計年度末に比べ588,642千円減少しました。これは主に買掛金及び役員退職慰労引当金の減少によるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は、6,029,502千円となり、前連結会計年度末に比べ372,924千円増加しました。これは親会社株主に帰属する四半期純利益の計上によるものであります。

この結果、自己資本比率は、87.1%となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、3,353,864千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は312,323千円となりました。これは主に税金等調整前四半期純利益755,194千円の計上により資金が増加した一方で、役員退職慰労金を支払ったことによる役員退職慰労引当金の減少250,228千円、並びに法人税等の支払203,882千円による資金の減少があったことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は59,647千円となりました。これは主に差入保証金の差入による支出32,895千円、有形固定資産の取得による支出20,353千円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は177,781千円となりました。これは主に短期借入金の返済による支出20,000千円及び配当金の支払150,695千円によるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後も景気は安定していると見られますが、物価高が経済全般に及ぼす懸念があるほか、新型コロナウイルス関連で行った融資の動向が金融機関に及ぼす影響も考えられます。

このような状況の中、当社といたしましては、主要顧客である金融機関の様々なニーズを捉えて、きめ細かな対応をして受注獲得につなげたいと考えております。また株式会社ダנקとの連携が業績に寄与するように進めていきます。

2023年9月期におきましては、売上高3,500,000千円（前年同期比8.3%増）、営業利益1,250,000千円（同0.6%増）、経常利益1,250,000千円（同0.6%増）、親会社株主に帰属する当期純利益870,000千円（同0.9%増）と予想しております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,260,623	3,353,864
売掛金及び契約資産	687,337	467,500
仕掛品	30,480	13,587
その他	16,176	14,012
流動資産合計	3,994,618	3,848,964
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,005,682	991,686
土地	1,665,888	1,665,888
その他(純額)	11,795	15,297
有形固定資産合計	2,683,366	2,672,873
無形固定資産		
のれん	83,802	77,816
顧客関連資産	13,563	12,884
その他	22,608	20,220
無形固定資産合計	119,973	110,921
投資その他の資産	339,283	288,765
固定資産合計	3,142,624	3,072,560
資産合計	7,137,242	6,921,525
負債の部		
流動負債		
買掛金	101,323	31,196
短期借入金	20,000	—
1年内返済予定の長期借入金	14,172	13,130
未払法人税等	217,805	179,658
賞与引当金	97,918	96,128
製品保証引当金	2,538	2,450
その他	589,650	391,756
流動負債合計	1,043,408	714,319
固定負債		
長期借入金	44,057	38,013
役員退職慰労引当金	303,033	52,804
その他	90,165	86,885
固定負債合計	437,255	177,703
負債合計	1,480,664	892,022
純資産の部		
株主資本		
資本金	326,625	326,625
資本剰余金	365,175	365,175
利益剰余金	5,729,597	6,102,522
自己株式	△764,819	△764,819
株主資本合計	5,656,578	6,029,502
純資産合計	5,656,578	6,029,502
負債純資産合計	7,137,242	6,921,525

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)
売上高	1,786,429
売上原価	571,364
売上総利益	1,215,065
販売費及び一般管理費	465,639
営業利益	749,425
営業外収益	
受取利息	26
受取保険金	4,593
助成金収入	1,259
その他	194
営業外収益合計	6,074
営業外費用	
支払利息	280
その他	25
営業外費用合計	306
経常利益	755,194
税金等調整前四半期純利益	755,194
法人税、住民税及び事業税	164,906
法人税等調整額	75,214
法人税等合計	240,120
四半期純利益	515,073
親会社株主に帰属する四半期純利益	515,073

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)
四半期純利益	515,073
四半期包括利益	515,073
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	515,073
非支配株主に係る四半期包括利益	-

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

当第2四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年3月31日)	
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	755,194
減価償却費	35,610
のれん償却額	5,985
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△1,789
製品保証引当金の増減額 (△は減少)	△88
役員退職慰労引当金の増減額 (△は減少)	△250,228
受取利息及び受取配当金	△26
支払利息	280
受取保険金	△4,593
助成金収入	△1,259
売上債権及び契約資産の増減額 (△は増加)	220,387
棚卸資産の増減額 (△は増加)	16,892
その他の流動資産の増減額 (△は増加)	3,171
仕入債務の増減額 (△は減少)	△70,127
未払金の増減額 (△は減少)	△21,450
未払消費税等の増減額 (△は減少)	11,795
契約負債の増減額 (△は減少)	△200,852
その他の流動負債の増減額 (△は減少)	12,894
その他の固定負債の増減額 (△は減少)	△1,188
小計	510,607
利息及び配当金の受取額	26
利息の支払額	△280
保険金の受取額	4,593
助成金の受取額	1,259
法人税等の支払額	△203,882
営業活動によるキャッシュ・フロー	312,323
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△20,353
無形固定資産の取得による支出	△1,535
保険積立金の積立による支出	△4,863
差入保証金の差入による支出	△32,895
投資活動によるキャッシュ・フロー	△59,647
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入金の返済による支出	△20,000
長期借入金の返済による支出	△7,086
配当金の支払額	△150,695
財務活動によるキャッシュ・フロー	△177,781
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	74,894
現金及び現金同等物の期首残高	3,260,623
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	18,346
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,353,864

（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動）

当社は、第2四半期連結会計期間において、当社の不動産賃貸事業を会社分割により、従来非連結子会社であった株式会社アイピーサポートに承継したことに伴い、重要性が増したため同社を連結の範囲に含めております。

なお、株式会社アイピーサポートは当社の特定子会社に該当しております。

（追加情報）

（新型コロナウイルス感染症の影響）

前連結会計年度の有価証券報告書の（追加情報）に記載した内容から重要な変更はありません。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

当第2四半期連結累計期間（自 2022年10月1日 至 2023年3月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	システム事業	不動産賃貸事業	計		
売上高					
システムインテグレーション売上	983,775	—	983,775	—	983,775
システムサポート売上	707,976	—	707,976	—	707,976
顧客との契約から生じる収益	1,691,751	—	1,691,751	—	1,691,751
その他の収益	—	94,677	94,677	—	94,677
外部顧客への売上高	1,691,751	94,677	1,786,429	—	1,786,429
セグメント間の 内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,691,751	94,677	1,786,429	—	1,786,429
セグメント利益	746,715	2,710	749,425	—	749,425

（注）1. 各報告セグメントにおける利益は、営業利益を使用しております。

2. その他の収益は、「リース取引に関する会計基準」の範囲に含まれる不動産賃貸収入であります。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（のれんの金額の重要な変動）

システム事業において、前連結会計年度に実施した株式会社ダנקの株式取得について、取得原価の配分が確定していなかったため、のれんの金額は暫定的に算出された金額でありましたが、当第2四半期連結会計期間に取得原価の配分が完了し、暫定的な会計処理が確定したため、のれんの金額を修正しております。

詳細につきましては「注記事項（企業結合等関係）」をご参照ください。

（企業結合等関係）

（企業結合に係る暫定的な会計処理の確定）

2022年9月21日に行われた株式会社ダנקとの企業結合について、前連結会計年度において暫定的な会計処理を行っていましたが、当第2四半期連結会計期間に確定しております。

この暫定的な会計処理の確定に伴い、当第2四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表に含まれる比較情報において取得原価の当初配分額に重要な見直しが反映されており、顧客関連資産に13,563千円、繰延税金負債に4,554千円が配分されました。

この結果、暫定的に算定されたのれんの金額92,810千円は、会計処理の確定により9,008千円減少し、83,802千円となっております。また、前連結会計年度末の連結貸借対照表において、顧客関連資産が13,563千円、固定負債その他（繰延税金負債）が4,554千円、それぞれ増加しております。